

令和5年度 江戸川区立松江第四中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	よく考えて自らすすんで学ぶ 体験を通して豊かな心を育む 健康でたくましく生き抜く	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	生徒の希望や夢を育む学校 よく学び 心ゆたかに たくましく 授業改善に努め、学びを継続し、人権を尊重し、人間性を高められる教師
--------	--	----------------------------	---

前年度までの学校経営上の 成果と課題	<成果> 3つの取組を推進 ①タブレットを活用した個別最適な学習への取組が進んだ ②SDGs達成に向けた生徒会の取組 ③授業力向上の研修を推進できた <課題> 3つの組織的取組 ①不登校生徒への支援 ②特別な支援を要する生徒への対応(個に応じた教育) ③校務分掌の整理と学校環境の整備
-----------------------	---

教育委員会 重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた 改善策		
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的対応による取組の実施・充実	【教員の指導力向上】 年3回校内研究授業で授業者の授業を参観する。協議会では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に重点をおいて協議する。	【教員の指導力向上】 全国学力調査「課題解決」向け、自分で考え、自分から取り組んだ(①と②の回答割合85%以上)	B	B	○2学期初めに全教員が授業を相互参観する期間を設けた。 ▲研究授業を増やすこと。	B	自己研鑽だけでなく、相互研鑽につながる機会を持つことができたことは良かった。研究会に積極的に参加するなど教員が人的ネットワークを広げる意識を持ってほしい。	教員が授業者となる研究授業を11月に実施し、その後の協議会で指導方法や評価方法を議論する。	
		【基礎学力の向上】 学力調査、領域別テストを併せて年3回実施する。また、その振り返りの時間を各教科において設定する。	【基礎学力の向上】 全国学力調査、教科の「授業の内容はよく分かる」と②の回答割合85%以上	A	B	○計画どおりに実施できている。 ▲成果として数値にはまだ著しい変化が見られない。	B	授業内で問題演習に取り組み時間を各教科で確保すること。	得点力が向上するよう、学習コンテンツを実施したりEライブラリを活用する。	
		【学習習慣の確立】 マイトノートや生活手帳を活用し、自己の学習状況や課題、目標等を管理する。	【学習習慣の確立】 全国学力調査「家で計画立てて勉強してる」①と②の回答割合85%以上	B	B	○具体的な取組は実施できている。 ▲タブレットの効果的な活用が課題。	B	家庭への情報提供を密にすることで、問題意識を共有し、連携しやすい土台をつくること。	特にEライブラリの活用を重点的に進めたい。	
		<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・SDGを軸にした教科等横断的な取組 ・朝読書の充実 ・教科での図書箱の活用 ・探求するにふさわしい問題を見出し、その解決に向けて読書等から収集した情報を効果的に分析するとともに、自分の考えを論理的にまとめ表現する「探求的な学習」を実施する。	・学校図書館の活用で探究的な学習に取り組む(80%)	B	B	○読書活動は、調べ学習や発表活動の中にも取り入れることができる。 ○図書環境の整備を図った。 ▲探究的な学習に結びつけること。	B	課題発見、解決型の学習に読書活動を結びつけて欲しい。	探究的な学習を展開する。
		<外国語教育の推進> ・授業力向上とALTの効果的な活用	・少人数を活かしたスピーキング力の向上 ・英語検定の受験率向上	・英語を使っている会話力の実感(80%) ・英検受験者70名以上	A	A	○スピーキングテストの成績が向上した。 ▲得点力向上の点ではまだ伸びしろがある。 ・英検受験者のリットについて理解不足。	A	成績が向上しているため、引き続きスピーキング力を高める授業等を実施して欲しい。	効果的な授業手法を英語科内で共有し、全学年でのスピーキング力向上を図る。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業での運動運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上 ・すべての教育活動を通じた生活習慣の改善	・単元の技能向上を意図した補助運動の実施	・運動の機会を増やし体力向上に取り組む(80%)	B	B	○昼休みに校庭で活動する生徒が多く、体力向上や運動習慣に寄与している。 ○栄養士が積極的に食に関する情報発信をしている。 ▲睡眠に関する取組がまだ少ない。	A	部活動や昼休みに生徒が体が動かす姿をよく見かけることができている。続けて欲しい。また、ホームページで給食の内容を詳しく知ることができている。見ていて参考になる。	睡眠に関する指導も実施し、生活習慣の向上を図る。	
		・外遊びや部活動を通じた運動体験の機会向上	・運動の機会を増やし体力向上に取り組む(80%)	A	A	○睡眠に関する取組がまだ少ない。	A			
		・睡眠に関する指導 ・栄養バランスの指導	・睡眠時間の増加(80%) ・食への意識向上(90%)	B	B	A	A			
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・S-C、巡回心理士の情報共有と組織的支援 ・保護者との関係づくりと機関連携機との連携 ・エンカレッジルーム、相談室の活用	・生徒・保護者の協力が、教師やSCなどとの相談や面談、エンカレッジルームの活用によって縮減・解消できる(80%)	A	A	○エンカレッジルームを増設した。 ○別室指導支援員を複数名確保し、校内別室指導の充実を図った。	A	校内別室指導支援事業に参加し、別室指導に先進的に取り組んでいる点を高く評価する。	つながりのない生徒をゼロにすることは常に意識し、外部機関や専門家との連携を継続する。	
		・不登校支援 ・不登校支援委員会の充実 ・オンライン面談、授業配信の実施	・学校とのつながりの確保(タブレットの活用など) ・外部専門機関の積極的活用	・どこにもつながりのない生徒をゼロにする	A	A				
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・bypaer-QUの活用	・いじめのおきにくい学級づくり ・QUの組織的活用	・いじめの未然防止、早期発見・早期指導による解消ができる組織的学級運営 ・いじめ未解決0 ・安全安心な学級・学校(90%)	A	A	○校内委員会が組織的に対応をしていることで、早期発見・早期対応につながっている。 ▲引き続きSNSに起因するトラブルが多いので、指導の必要性は高い。	A	効果的な校内体制だと感じる。SNSトラブルは家庭との連携が必要である。	SNS、インターネットの使用に関する生徒指導、家庭への周知活動を行う。	
		・東京SNSルールを活用した家庭ルールの指導	・インターネット・SNSを正しく安全に指導する。							
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・開かれた学校を意図した情報提供と公開	・ホームページ、一日のアクセス数500件以上 ・学校のことがよくわかる(80%)	A	A	○毎日の出来事をタイムリーに掲載できた。宿泊行事でも現地から最新情報を提示した。 ▲一日500件には届いていない。	A	ホームページより学校の様子を詳しく知ることができた。記事内のコメントも適切であった。	引き続きホームページの充実を努める。	
		・保護者アンケートの実施(7月)	・学校のことがよくわかる(80%)	B	B	▲学校公開、アンケート、学校だより、ホームページがそれぞれ単発的なものではなくなるようにする。	A	全体として学校のことはよくわかるようになってきたと思う。	各種媒体を有機的に結びつける。	
特色ある教育の展開	<SDGsに取り組む学校> ・各教科等におけるSDGsの取組 ・特別活動・行事におけるSDGs ・生徒会活動によるSDGS	・教科などにおけるSDGs達成に向けた実践	・SDGs達成に向けて行動している(90%)	B	B	○SDGsに対して興味関心を高めるための校内掲示を行っている。 ▲総合的な学習との連携を今後行う。	B	SDGsを題材にクリティカル・シンキング的な態度や思考を身につけさせて欲しい。	総合的な学習でSDGsをテーマにして考える時間を設けたい。	
		・発言しやすい学級づくり ・考え議論(対話)する授業により、多様な意見を受け止め、自身の価値観を高める。	・積極的な対話を通し、自身や他者とのちがわりについて深く考える。(80%)	A	A	○道徳科だけでなく教科指導においても話し合い活動を多く取り入れている。 ▲多様性を尊重する意識を更に高める。	A	教材理解的な道徳ではなく、議論し考えを深める道徳を展開して欲しい。	道徳の研究授業を年度内に実施したい。	